

やけどの知識とその予防

やけどってなに？

「あちっ！」その瞬間、慌てて水で冷やしたことはありませんか？

日常生活の中で起こりやすい怪我の一つが「やけど」です。

やけどは熱湯や蒸気、熱した油、アイロン、火などの熱いものに触れることで起こる皮膚の損傷です。

低温であっても長時間ふれていると、やけどになることがあります。（低温やけど）

酸・アルカリなどの化学薬品が皮膚についてやけどになることもあります。（化学やけど）



やけどの深さは、Ⅰ度からⅢ度で分類されます。

～熱の温度と触れた時間によって程度が決まります～



Ⅰ度のやけど

皮膚が赤くなり、ひりひりと痛む程度のやけどです。

「強い日焼け」はⅠ度のやけどです。水ぶくれはできません。

経過・・・数日で治ります。



Ⅱ度のやけど

皮膚に水疱（水ぶくれ）があらわれ、激しい痛みや灼熱感を伴うやけどです。

経過・・・2～4週間で治ります。

はれや痛みが強い場合は、医療機関を受診してください。



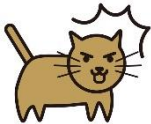
Ⅲ度のやけど

最も深いやけどで、皮膚は硬く、白色となり痛みはなく、しびれたような感覚になります。

経過・・・数か月、自然治癒は困難で手術が必要な場合がありますので、すぐに医療機関（総合病院）を受診してください。

やけどの事例

- 炊飯器等の蒸気が気になり、触れてみた。
- カップラーメンや熱いお茶をこぼしてしまった。
- 魚焼きグリルを使用中に、グリル窓に触れた。
- アイロンのスイッチが入りっぱなしを忘れていて片づける際に、触れてしまった。
- 湯たんぼ、あんか、使い捨てカイロなど長時間ふれていてやけど（低温やけど）
- 化学工場で勤務中に薬品の入ったバケツをこぼして触れてしまいやけど（化学やけど）



こんなところでやけど？

- 日差しで滑り台が熱くなっていて、おしりをやけど。
- 炎天下、金属製品（マンホールなど）の上に座ってしまいやけど。
- 車の下に入ったボールを取りにもぐってマフラーに触れてやけど。
- 真夏のアスファルトの地面、裸足で遊んでいてやけど。



こんなことになるなんて・・・
子どもが小さな時ほど、注意が必要です。

やけどになったら



- ☆やけどをした場合、きれいな水（水道水やミネラルウォーター）で洗い流してください。
- ☆やけど部位は、ごしごし擦らずに水をかけ流しましょう。
- ☆体の部位や年齢にもよりますが、15分～30分程度の冷却で痛みを軽くします。
- ☆衣服は無理に脱がさずに、衣服の上から水をかけて冷やします。
- ☆水ぶくれは、やけどの傷口を保護する役割があるので破いてはいけません。
- ☆きれいな水で湿らせた布やタオルで患部を冷やしなるべく早く病院を受診しましょう。
ただし、冷やし過ぎには注意してください。
- ☆化学やけどの場合、薬品のついた衣服を早く取り除き、水道の流水で流します。
- ☆赤ちゃんや高齢者の方は皮膚が薄いため、やけどは深くなりやすいので特に注意しましょう。

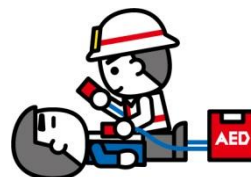
危険性を事前に知っていれば
予防できる事故はあると思います。
日常のちょっとした心がけで防げるものがありますので、やけどを未然に防ぐために日頃から気を付けるポイントを知り、意識して行動することで【予防対策をとりましょう。】



長野市消防局では、いざという時のために各種救急講習会を定期的を開催しています。
受講を希望される方は、お近くの消防署までお問い合わせください。

○応急手当をいつでも確認できるよう準備

このQRコードで長野市ホームページ内の「応急手当の手順」に接続されます。



火事と**救急**は119番

長野市消防局 篠ノ井消防署